

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320146

研究課題名(和文)伊勢商人長井家江戸来状群の整理・保存・公開と研究基盤創出に向けての史料学的研究

研究課題名(英文) Archival research on correspondences of an Ise merchant Nagai family: arrangement, preservation, disclosure and building infrastructure for further research

研究代表者

山田 哲好 (YAMADA, Tetsuyoshi)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：70220390

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,600,000円、(間接経費) 3,780,000円

研究成果の概要(和文)：未整理状態であった伊勢(松坂)商人長井家の江戸店からの来状群について、(1)整理と保存・公開を目指した処置を施し、(2)来状群の構造分析を行い、今後の研究基盤創出を目指した研究を行った。(1)については、文書を収蔵する津市石水博物館での予備調査2回、本調査10回を実施し、1万2千点を超える量の整理と目録作成を行い、これらの保存・公開措置も同時に進めた。(2)の構造分析の結果、江戸店からの来状群が主ではあるが、松坂本店で作成・授受した多種・多様な文書群も混在していることが判明した。これらから経営に関わる具体的な取引内容や交友関係の把握が可能である貴重な文書群であることが確認できた。

研究成果の概要(英文)：The aims of this project are: (1) arrangement and preservation of unprocessed correspondences from the Edo office of the Nagai family, a famous Ise (Matsuzaka) merchant company of the Tokugawa period; (2) structural analysis of those correspondences and building infrastructure for further research. During the two preliminary surveys and ten main surveys at Sekisui Museum, the repository of the papers, we arranged and made catalogs of more than twelve hundreds of the correspondences, and processed them for preservation and making available to the public. As a result of the structural analysis of the correspondences, we discovered that the most of them were from the Edo office, but it also includes various kinds of papers created or received at Matsuzaka headquarters office. We found these records valuable as they reveal the actual transactions and relationships about the business of the Nagai family.

研究分野：アーカイブズ学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：伊勢商人 長井家 江戸来状 構造分析

1. 研究開始当初の背景

本研究の対象である松坂商人長井家は、江戸大伝馬町一丁目に「大和屋」(元禄9(1696)年開店)「綿屋」(元文5(1740)年開店)の2軒の木綿問屋を持ち、近世から明治・大正期にかけて活発な営業活動を見せた代表的な江戸店持伊勢商人の一つである。その綿綿商いを中心とする富豪ぶりはつとに名高いものであるが、長井家は江戸での営業活動による致富を基に、松坂においても諸文人との交友を深め、紀州藩の御方替方や銀札方を勤めるなど、小津・長谷川・三井などとならば有力町人であった。この長井家は、昭和6年に松坂を去ったが、その際に同家の伝存資料を一括して津の商人川喜田半泥子(16代久太夫政令)が購入し、現在、津市の公益財団法人石水博物館に収蔵されている(同家文書は、綿屋店関係分の一部が松阪市立図書館郷土資料室蔵、江戸店書状が松阪市内個人蔵など一部分散)。したがって、津市の川喜田家所蔵史料は、(1)川喜田家の商業活動に伴って伝来したもの、(2)歴代当主による収集史料とに大別され、収集史料の中心を占めるのが本研究対象の長井家文書である。川喜田家所蔵の(1)(2)については、平成7年度から同9年度の三カ年に亘り、文化庁及び三重県の補助金事業で整理と目録化が行われ、『川喜田家歴史資料調査報告書 川喜田家歴史資料目録』(津市教育委員会、平成10年、書状一覧含めて2冊、以下『目録』と略記)として刊行された。この『目録』には、(2)の収集史料で長井家文書として、A. 商業とB. 家政に大別され、A. 商業では、1. 決算関係(初期経営、本店、綿屋店、新店、店不明、延宝3年～明治40年)で2,169点、2. 営業関係(元禄13年～明治33年)で175点、3. 店制関係(宝暦年中～明治27年)で51点、4. 領主関係(寛文2年～慶応4年)で176点、6.(5該当なし)その他(元禄13年～明治30年)で64点、小計2,635点、B. 家政では、1. 家譜・家族関係(明和4年～文化2年)で17点、2. 家計・金融・家財関係(延宝9年～大正5年)で123点、3. 日記・控留関係(享保13年～明治18年)で74点、4. 慶弔関係(享保9年～明治32年)で49点、5. 儀礼・交際関係(天保6年～昭和7年)で39点、6. 信仰関係(明和7年～天保6年)で30点、7. 教養関係(大永4年から明治32年)で93点、8. 芸能・娯楽関係(慶安5年～明治36年)で118点、9. 雑記関係(安永4年～明治27年)で64点、小計607点、総点数3,242点が収録されている。

この長井家文書の特徴は、全体の8割強を占める商業活動の過程で伝来した文書群の存在で、とりわけ算用目録帳の長期間にわたる継続的な残存も指摘できる。一方で、特に学問、書画、芸能関係史料(古記録・典籍・番付類)の大量かつ広範な伝来をも挙げることができ、半泥子による長井家資料の購入は、特に後者の側面に着目してなされたと考え

られている。この内、芝居番付や諸典籍類は、川喜田家伝存の典籍類と共に石水博物館にて国文学者が中心となって整理と目録化が進められ、終盤を迎えつつある。

本研究の対象である江戸店からの来状群は、現在石水博物館にて15箱のダンボールに分納され(各箱内は量の多寡あり)、各箱内は紙縫・封筒・包紙により重層的に括られていて、そのまとまりからして原秩序が崩されることなく伝来したものと考えられる。総点数約1万2千点と推定され、前記平成7年からの補助事業による調査では、量の多さなどの理由で整理と目録化が見送られたもので、現在でも全く未整理の状態にある。この来状群は、江戸店からの決算報告類や稟議が松坂本家に定期的に送られたもので、その他に店掟、符牒書上、店・屋敷について家守、広さ、金額等の書上と添絵図、屋敷売券や添証文もある。江戸本店は元禄期以降木綿問屋として経営を伸張させ、享保期から木綿問屋経営とは別に貸金業を開始し、元文期になってこの貸金部門を本店部門から切り離し、「奥田方」と名称を付けたが、この奥田方の差引書も大量に含まれることなどから、江戸店経営の細部に関わる実態が反映されているばかりでなく、「極内密」「御内覧」扱いの書状や願書類、開帳奉納、諸方贈物、薬処方、詠草など内容は多岐に及ぶ。以上から、すでに『目録』に収録された「店算用目録」を代表とする諸帳簿類とは密接に関連・補完するものであることから、整理と目録化は緊急の課題であった。本研究の第一の目的は、この課題を早期に解決するための整理と目録化を図ることで、伊勢商人を代表する長井家文書の全貌が把握できることから研究基盤創出や環境整備に寄与すること大であろう。特に注目されるのが、当時の重層的な括り方が、現形のまま伝来していることである。文書群を利用する際、これを科学的に認識するためには、(1)個々の史料自体の属性(文字・図像などの記録内容、素材、形状、様式、記録手段など)を理解すること、(2)個々の史料を文書群全体に位置づけてその存在の意味を理解することがアーカイブズ学(含：史料学的)にも重視されなければならない。そのためには、文書群発生源母体である組織や個人の機能、さらにはその組織体や個人の活動を規定する社会や国家の機能との関連において明らかにすること、これが文書群の構造分析である。すなわち第二の目的は、江戸来状群の独自の構造を明らかにすることに最大の特徴があり、同時にそれを目録にも反映させなければならないことはいうまでもない。また構造分析を踏まえた大量の文書群の整理と目録作成に関わった経験から、本対象である江戸店来状群の伝来現状に注目したのと、整理済み文書と密接不可分にありながら、大量であるが故に整理が見送られてきた現状を看過できなかったからである。

2. 研究の目的

本研究は、伊勢松坂湊町の商人長井家に伝来した文書群の中で、近世を通じて約200年間に亘る江戸店からの来状群約1万2千点の整理・保存・公開を図って研究基盤づくりを行うと共に、これら来状群は当時紙綴などで一括された原状が残されていることが特徴で、この原状を重視した構造分析を、史料学的視点から究明することが目的である。この来状は、江戸店の経営に関わる諸勘定書類が中心であるが、経営に限らず日常生活に関わっての諸情報ももたらされていることから、伊勢商人の江戸での諸活動の実態究明にも寄与できるものである。

3. 研究の方法

研究を開始するに際して、研究代表者、連携研究者、研究協力者による研究打ち合わせを国文学研究資料館(立川市)や収蔵機関である津市石水博物館で行い、方針・計画を協議し、調査と目録化についてのマニュアルを策定した。そのための予備調査を2回実施した。本格的な内容調査(整理・目録化と構造分析)を計10回実施し、現地では大勢の協力者(30名)の助力を得て延600人日で、総計1万2千点を超える来状群の整理と目録化を終えた。年1回は全体会議で成果の共有化を図りつつ、またデジタルカメラで主要な文書の撮影(1,241点、6,598カット)も行なってデータの共有化を図った。さらに保存・公開方法についても協議し、具体的処置も施した。

4. 研究成果

研究の主テーマである文書群の構造分析の結果、約200年間に亘る江戸店からの来状が主ではあるが、松坂本店で作成・授受した多種・多様な文書群も混在していることが判明した。江戸からの来状は、松坂本店当主や支配人宛で、経営に関わる具体的な取引内容や帳面の仕立て方法、江戸での出来事をも報告している。最も意義あることは、決算帳簿である「店算用目録」では金額のみしか記載がないが、その具体的な取引内容を補完する情報であることは特筆すべきことである。一方松坂本店で作成・授受した文書群は、長井家と他家との年始・年末・五節句時の贈答儀礼に関わる文書群が多く、これにより交友関係の把握ができる。さらに長井家の「店則」に関わって、経営会議、営業規定、役職とその業務分担の実態が把握できることも意義がある。また本居宣長の自筆書状の新発見があり、松坂で医者だった宣長が長井家の当主を診断した結果を、当人ではなく支配人に報告したもので、医者としての実態把握が判明する文書がない状況に一石を投じるものであることを付言しておく。

最終年度には、研究成果を地域に還元する

意図で、津市商工会館丸之内ホールにおいて「科研費調査報告 シンポジウム 伊勢商人長井家の経営」を開催し(報告者6名)、80名を超える参加者と活発な質疑応答をも行った(2014年3月8日)。

本研究成果としての論文集と1万2千点を収録した目録を2014年12月に刊行する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計6件)

山田哲好、調査研究の経緯と目的、「科研費調査報告 シンポジウム 伊勢商人長井家の経営」、平成26年3月8日、津市商工会館丸之内ホール

青木睦、大正・昭和初期に建造された文庫の保存環境、「科研費調査報告 シンポジウム 伊勢商人長井家の経営」、平成26年3月8日、津市商工会館丸之内ホール

門暉代司、長井家の教養と道楽、「科研費調査報告 シンポジウム 伊勢商人長井家の経営」、平成26年3月8日、津市商工会館丸之内ホール

鈴木敦子、伊勢商人とは、「科研費調査報告 シンポジウム 伊勢商人長井家の経営」、平成26年3月8日、津市商工会館丸之内ホール

賀川隆行、江戸の持ち屋敷と地縁的金融、「科研費調査報告 シンポジウム 伊勢商人長井家の経営」、平成26年3月8日、津市商工会館丸之内ホール

茂木陽一、長井家奉公人の商人道、「科研費調査報告 シンポジウム 伊勢商人長井家の経営」、平成26年3月8日、津市商工会館丸之内ホール

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田 哲好(YAMADA, Tetsuyoshi)・国文学研究資料館・研究部・准教授
研究者番号：70220390

(3) 連携研究者

塚本 明(TSUKAMOTO, Akira)・三重大学・人文学部・教授
研究者番号：40217279

上野 秀治(UENO, Hideharu)・皇學館大学・文学部・教授
研究者番号：70072428

茂木 陽一(MOGI, Youichi)・三重短期大

学・法経学部・教授
研究者番号：80200327

賀川 隆行 (KAGAWA, Takayuki)・元公益財
団法人三井文庫・主任研究員
研究者番号：90087908

高部 淑子 (TAKABE, Toshiiko)・日本福祉
大学・知多半島総合研究所・教授
研究者番号：70351088

曲田 浩和 (MAGARIDA, Hirokazu)・日本福
祉大学・経済学部・教授
研究者番号：00329765

鈴木 敦子 (SUZUKI, Atsuko)・大阪大学・
経済学研究科・助手
研究者番号：80547018

高橋 実 (TAKAHASHI, Minoru)・国文学研
究資料館・名誉教授
研究者番号：20296180

青木 睦 (AOKI, Mutsumi)・国文学研究資
料館・研究部・准教授
研究者番号：00260000

西村 慎太郎 (NISHIMURA, Shintarou)・国
文学研究資料館・研究部・准教授
研究者番号：90383546

研究協力者：

龍泉寺 由佳 (RYUSENJI, Yuka)・公益財団
法人石水博物館・学芸員

門 暉代司 (KADO, Kiyoshi)・元本居宣長
記念館・館長

鈴木 えりも (SUZUKI, Erimo)・三重県史
編纂室